■北尾次郎　　**気象学者・物理学者。気象学研究の先駆者として，海外で高い評価を得たが，早世した。**
きたおじろう
ペリー来航・1853＝　　松江藩に生まれる。藩医松村寛裕の次男。

のち北尾漸一郎の養子となる。

桜田門外変・1860＝ 7歳：

生麦事件・・1862＝ **9歳：**

少年時に藩儒内村友輔の門に入る。
明治維新・・1868＝15歳：

初の日刊新聞1870＝17歳：**_ドイツに留学し，**
廃藩置県・・1871**＝18歳：**
_ベルリン大学・ゲッチンゲン大学で物理学を専攻，
明治6年政変 1873＝20歳：
ドイツ婦人と結婚して1子をもうける。

・・・・・・1880**＝27歳：**
明治14年政変1881＝28歳：

岩倉具視没・1883＝30歳：**_帰国。**
秩父事件・・1884＝31歳：**_文部省御用掛東京大学理学部勤務となり，**
内閣発足・・1885＝32歳：東京山林学校教授心得，
帝国大学始・1886＝33歳：**_東京山林学校が東京農林学校と改称され，同校教授。**
国民之友始・1887＝34歳：***独語{帝国大学紀要理科}に論文「大気の運動及颶風の理論」を発表，日本人の手になる最初の気象学研究で，当時としては気象力学の理論的に非常に高度な渦動論で，国内的にはほとんど影響を与えなかったが，**
初の対等条約1888＝35歳：海軍教授兼任。
帝国憲法発布1889**＝36歳：**_**「大気の運動及颶風の理論」の続編を発表，**
帝国議会始・1890＝37歳：***この年刊行されたアメリカの気象学者クリーブランド=アッペの{スミソニアン=インスティテユーションの気象力学の最近の進歩に関する報告}に'ヘルムホルツやオーベルベックのエレガントな解析にも比され，キルヒホッフの仕事を思わせる'と評され，{エンサイクロペディア=ブリタニカ}の第11版の気象の項にも紹介された。東京農林学校が帝国大学農科大学となるとともに，同教授。**
大津事件・・1891＝38歳：**_理学博士となり，**
大本教・・・1892＝39歳：農林物理学気象学講座担任，帝国大学評議官。
日清戦争始・1894＝41歳：
日清戦争終・1895＝42歳：**_さらに磨きをかけて，「大気の運動及颶風の理論」を3度発表，**
子規句歌革新1898**＝45歳：**

教科書疑獄・1902＝49歳：**_以降，欧州各国に派遣されるが，**

日露戦争終・1905＝52歳：

韓国反日暴動1907**＝54歳：**_**病没した。**
そのほか数学や電気測定の論文があるが，農科大学で行なった土壌中の水の連動や木材の収縮膨脹に関する研究などがある。また文学に親しみ，独文で「森の女神」(未刊)と題する長編小説も書いた。

平凡社百科事典，